

平成28～30年度 学校教育における指導の努力点

【本県教育の目標】

【努力点】

創造性・国際性に富む人材の育成と生涯学習の振興

自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに豊かな表現力とねばり強さをもつ幼児児童生徒を育成する。

平和で安らぎと活力ある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際社会・情報社会等で活躍する心身ともに健全な県民を育成する。

学校・家庭・地域社会の相互の連携及び協力のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会の実現を図る。

幅広い教養と専門的能力を培うとともに、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく資質を有する人材を育成する。

沖縄県教育振興基本計画

学校教育における指導の努力点

○確かな学力の向上

幼児児童生徒一人一人に夢や希望を持たせ、目的意識の高揚や学ぶ意欲を向上させるために、学校での「学び」が、実生活と関連することを実感させる。また、「学ぶ意義」や「学ぶ意欲」の向上を図るキャリア教育の視点を踏まえた取組を推進する。

○豊かな心の育成

命の大切さや思いやりの心、善悪の判断や公共心などの規範意識、正義感や公正・公平を重んじる心、美しいものに感動する豊かな感性、自立心、自己抑制力、共生の心など、「豊かな心」を教育活動全体を通じて育成する。

○健やかな体の育成

健康に関する現代的課題に適切に対処するために、学校保健、学校安全及び学校給食を総合的にとらえ、体験的な学習の充実を図るなど、幼児児童生徒の心身の健康の保持増進に組織として一体的に意図的・計画的に取り組む。

○目的意識の高揚

幼児児童生徒に目標の達成に向けて努力することの大切さを気付かせたり、その過程を振り返ったりする活動を通して、自己肯定感や向上心を育む指導に努める。

○基本的な生活習慣の確立

各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動をはじめ、学校の教育活動全体で、基本的な生活習慣の確立に係る適切な指導の充実に努める。

○地域の自然・歴史・文化の重視

地域の自然や歴史、文化に係る地域素材を積極的に教材化し、体験活動や体験的な学習など、多様な活動の促進により、心の拠り所である地域への愛着心やそれらを基盤に他の文化を受容するなど、個性豊かで創造性に富んだ学習活動を推進する。

I
幼稚園

II
小学校・中学校

III
高等学校

IV
特別支援学校

【関連施策】

- 沖縄21世紀ビジョン基本計画
- 沖縄県教育大綱
- 沖縄県教育振興基本計画
- 生涯学習・社会教育推進の努力点
- 学力向上推進プロジェクト
- わかる授業 Support Guide

沖縄県教育委員会

国語 ～言語活動のさらなる充実を目指す～

言語活動を通して、付けたい力（指導事項）を育成する授業（単元）づくり
 実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けるために、
 次の3つのステップと3つの視点で授業（単元）づくりを行う。

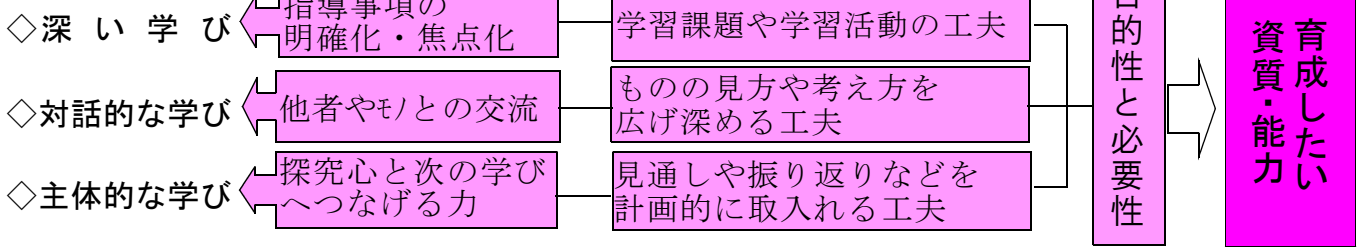
■3つのステップ

◇ 学習指導要領の内容と指導事項、児童生徒に付けたい力の明確化と適切な言語活動の設定
 例：「B 書くこと」(1)ウを指導するために、(2)言語活動例ウを使って、単元名「観光パンフレット
 を批評しよう～説明力のある文章を書く～」を言語活動として設定する。（中学校第1学年）

◇ 言語活動に基づいて、指導事項に適した学習活動を具体化

◇ 評価規準の設定

■3つの視点



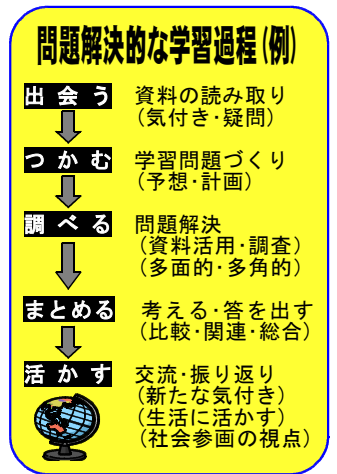
社会・地歴・公民 ～資料活用と問題解決的な学習の充実～

■ゴールを明確にした「見通し」と「振り返り」のある授業

◇ 知的好奇心を高める効果的な資料や課題の提示を工夫し、児童生徒が見通しや予想を持ち、多面的・多角的に考察できるようにする。
 ◇ 思考の可視化や授業の流れがわかる構造的な板書を工夫し、児童生徒が学習を振り返り社会的事象の意味を考えられるようにする。

■社会参画を意識した体験的・問題解決的な学習の充実

◇ 諸資料の日常的な活用を図り、複数の資料を比較・関連・総合して考えたり、根拠を示して説明したりするなど言語活動の充実を図る。
 ◇ 観察や調査など体験的・問題解決的な学習を計画的に実施し、思考力・判断力・表現力等を育成するとともに社会参画の意識を育てる。



算数・数学 ～数学的活動を通じた授業改善～

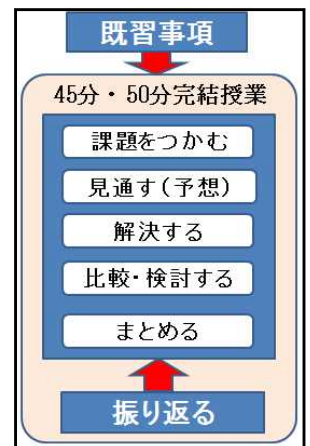
■思考過程を表現するノート指導

◇ これまでの既習事項を活用する場面を通して、新たな課題を見出し、課題解決の方法や結果等の見通しをノートに記述させる指導を行う。
 ◇ 課題解決の思考過程をノートに記述し、記述内容等を基にした比較検討を通して、よりよい解決方法等を表現させる指導の充実を図る。

■思考力・判断力・表現力等高め、学ぶ楽しさや意義が実感できる授業

◇ 課題解決の必要性が実感できる教材による数学的な見方・考え方を働かせて思考・判断・表現させる授業を各単元で実践する。
 ◇ 主体的・対話的な学習を通して課題解決した結果から、さらに発展的に考え、新たな課題を解決する深い学びに向かう授業の充実を図る。

■3点ツールを使った授業の振り返りの実践による学年会・教科会の充実



Three images illustrating the '3-point tool' for reflection:

- 板書計画** (Lesson Design): 評価の観点を明確にした授業設計 [Lesson design with clear evaluation perspectives]
- 板書写真** (Board Photo): 授業後の板書写真で授業を振り返る [Reflect on the lesson using board photos after class]
- ノート写真** (Notebook Photo): 思考の足跡を見取る [Track the traces of thinking]

理科 ～科学的に考える学習活動の充実～

■主体的に問題を見出し、観察・実験を計画する学習活動

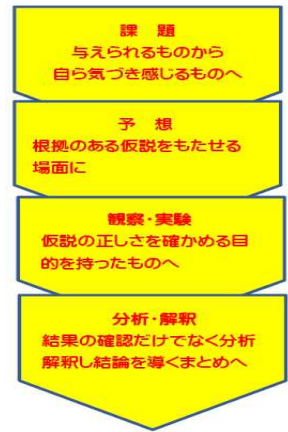
- ◇児童生徒の関心を高め、身近な現象を取り上げ、問題を見出す。
- ◇予想や仮説をもち、見通しをもって観察・実験を計画する。

■観察・実験の結果を分析し、解釈する学習活動

- ◇観察・実験の結果をわかりやすく、表やグラフを用いて整理する。
- ◇観察・実験結果を予想や仮説と対比しながら、考察を言語化する。
- ◇規則性を発見し、結論を導く。

■科学的な概念を使用して、考えたり説明したりする学習活動

- ◇科学的な概念を使用して、児童生徒が個々の考えを説明し合う。
- ◇班や全体による話し合いを通して、考察が深まるように指導する。



生活 ～気づきの質を高める学習指導の工夫～

■気づきの明確化と気づきの質を高める指導

- ◇3つの対象（自然事象，社会事象，自分自身や自分の生活）と自分の関わりを通して自分自身がどう変容していくか気付かせる。
- ◇直接体験と振り返りを繰り返させる学習活動を展開する中で，単元や1単位時間において，「表現する活動」と「伝え合う活動」を効果的に位置付ける。
- ◇情意的な気づきを知的な気づきへ向かうよう共感したり問いかけたりする。

■幼児教育と小学校教育の円滑な接続及び他教科との合科的・関連的指導

- ◇スタートカリキュラムの充実を図り，他教科等で育成される資質・能力との関係性を明確化する。

音楽 ～主体的な表現・鑑賞活動の充実～

■思考・判断し，表現する過程を重視した指導の一層の充実

- ◇音楽の特徴を感じ取りながら，思いや意図をもって音楽表現をしたり，楽曲の特徴や演奏のよさをとらえて味わって聴いたりする主体的・創造的で協同的な学習を促し，音と言葉によるコミュニケーションを図る指導を工夫する。

■ねらい・学習活動・評価の一体化

- ◇歌唱，器楽，音楽づくり（創作），鑑賞の各指導内容相互の関連を十分に図り，バランスの取れた学習活動を展開し，ねらい・学習活動・評価の整合を図る。

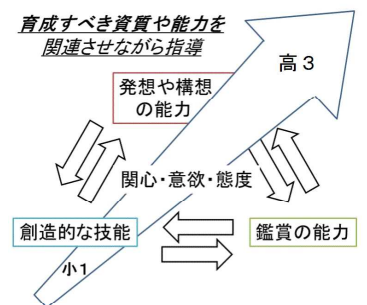
図画工作・美術 ～創造活動の基礎を育てる～

■創造することの楽しさを感じるとともに，思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力の育成

- ◇創造性を育む造形体験の充実を図りながら，生活や社会と豊かにかかわる態度を培う。
- ◇作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動を充実させ，互いの思いを語り合うなど，鑑賞の指導を重視する。

■図画工作・美術科における学習活動のプロセスを考慮した指導

- ◇子どもの発達の段階に応じて，各学校段階の内容の連続性に配慮し，育成する資質や能力と学習内容との関係を考慮して指導する。
- ◇図画工作・美術で育成する資質や能力が，児童生徒の主体的・協働的な学習活動の中で関連しながら働くように指導する。



家庭，技術，情報 ～生活を工夫する能力，態度の育成～

■学んだ知識及び技能を活用し，生活を工夫する能力と態度を育成する工夫

- ◇学んだ知識及び技能を生活の中で工夫し，創造しながら活用できるような題材(教材)を開発する。
- ◇実践的・体験的な学習活動を通して，学んだ知識と技能が，生活と深く結び付いていることを実感させる。
- ◇家庭や地域との連携を図り，学んだ知識と技能を生活の様々な場面で実践する力を育む。

■生活の課題解決につながる言語活動の充実

- ◇衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察させる指導や，図表等を活用して思考を深めたり，教科特有の言語を用いて説明させる等の指導の工夫を図る。

体育・保健体育 ～豊かなスポーツライフの基礎を培う指導の充実～

■生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成〈基礎的な知識・技能の習得と活用〉

◇指導と評価の一体化を推進し、妥当性と信頼性を確保する評価計画（評価規準）を実践するとともに、運動を苦手とする児童生徒への支援の仕方を工夫するなど、個に応じた指導の充実を図る。

■体力向上に向けた実践力の育成〈全校体制による一校一運動の充実〉

◇「体づくり運動」の時間を確保し、その成果を他の領域でも活用するなど、一層の体力向上が図れるような指導の在り方を工夫する。

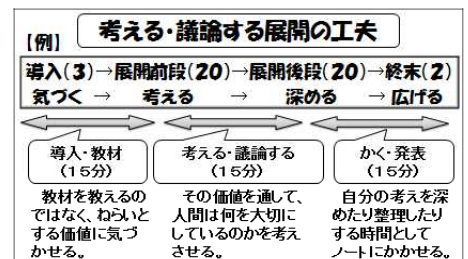
■健康な生活を送る資質や能力の育成〈思考力・判断力などを養う保健学習の充実〉

◇実生活の中で、知識・技能を活用しながら自ら課題を発見し、主体的・協働的に探究し、成果を表現していけるよう学びの質を高める。

特別の教科 道徳（以下「道徳科」） ～考える道徳，議論する道徳～

■道徳科の特質を生かした学習指導

- ◇導入：主題に関わる問題意識をもたせたり，教材の内容に興味や関心をもたせたりする。
- ◇展開：児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問を行う。
- ◇終末：考えたことや新たに分かったことを確かめたり，学んだことを更に深く心にとどめたりする。



■道徳科に生かす発問の工夫

◇児童生徒の多様な感じ方や考え方を引き出すために，考える必然性や切実感のある発問，自由な思考を促す発問，物事を多面的・多角的に考える発問などを心掛ける。

外国語活動・外国語 ～コミュニケーションを図る資質・能力の育成～

■身に付けさせたい力を踏まえた授業づくり

◇身に付けさせたい力を踏まえ、「めあて」「学習活動」「評価」を連動させる。

■単元目標の達成に向けたコミュニケーション（言語）活動の充実

- ◇「めあて」を達成するための活動の必然性や場面設定，仕掛けで，意欲を喚起し，効果的な言語活動の工夫をする。
- ◇文法事項は，実際に活用できるように指導する。

■妥当性と信頼性のある評価

- ◇CAN-DOリストの形での学習到達目標の設定による達成状況を把握する。
- ◇単元の目標を踏まえ，焦点を絞った適切な評価規準を設定する。
- ◇「話すこと」はインタビューや，即興スピーキング，スピーチ等実際のパフォーマンスで評価する。



総合的な学習の時間 ～探究活動・協同的な学習の充実～

■探究の過程における協同的な学習の充実

- ◇問題の解決や探究活動の過程に，他者との協同による学習活動や，分析，まとめなどの表現活動を適切に位置付ける。
- ◇レポート，ポートフォリオや相互評価など，多様な評価を工夫し，自他の学びのよさに気付かせるように工夫する。

■探究的な学習を充実させるための「カリキュラム開発」

- ◇児童生徒自らが積極的に課題を持ち，主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育成するためのカリキュラム開発を行う。
- ◇身近な地域資源の活用を積極的に推進し，地域に誇りをもてる児童生徒の育成を図る。



〔探究的な学習における児童生徒の学習の姿〕

特別活動 ～子どもの「よさ」を伸ばし、自立的に生きる基礎を養う～

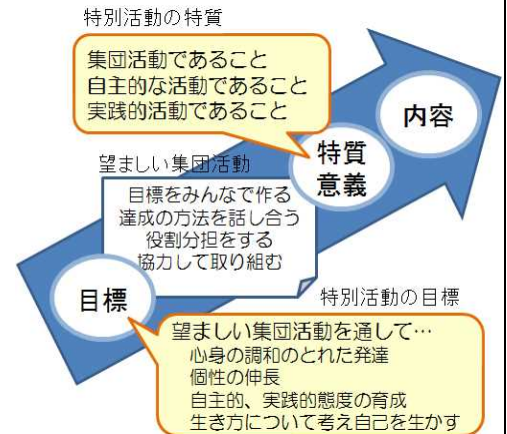
■指導計画の充実と指導体制の確立

◇全教諭の協力のもと、自校の課題を踏まえ、道徳的実践の指導の充実を図る観点から活動を通して育てたい児童生徒像を明確化し、指導内容を重点化した指導計画を立てるとともに、日常的に計画の見直しや改善を図る。

■望ましい集団活動を前提とした特別活動の指導の充実

◇活動の目標をみんなで作り、目標達成の方法を話し合い、役割分担をし、協力して取り組む活動を通して、自主的、実践的態度を育てる特別活動の充実を図る。

◇よりよい生活や人間関係を築くため、「集団活動」「自主的な活動」「実践的な活動」の特別活動の特質を踏まえた指導の充実を図る。



高校芸術及び職業 ～次代を担う人材の育成～

音楽 1 生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる音楽教育の推進

2 歌唱、器楽、創作、鑑賞の相互関連、主体的学習の充実

美術 1 感性を高める創造活動の充実、生活や社会と豊かに関わる態度の育成

2 美術の表現や鑑賞を通して育成する資質や能力を明確に設定した授業の推進

工芸 1 地域の伝統工芸を生かした実践的・体験的な学習活動の推進

2 沖縄の染織工芸及びデザインを担う創造的な工芸教育の充実

書道 1 実生活や地域社会との連携を図った体験的・主体的な書道教育の推進

2 書の伝統と文化を継承・発展させる創造的な書道教育の充実

農業 1 地域資源を活用した商品開発や地域貢献を目指した取組の推進

2 創造的な能力と実践的な態度を育成する農業教育の充実

工業 1 先端技術等への対応とものづくり人材育成のための実践的な工業教育の推進

2 学校と地域や産業界との間のパートナーシップの確立及びインターンシップの充実

商業 1 地域や企業と連携した実践的・体験的な商業教育の推進

2 ビジネスの場面を想定した質の高い考察や討論の研修の充実

水産 1 多様化する海洋関連産業と社会のニーズに対応した水産・海洋教育の推進

2 地域や外部機関と連携した実践的・体験的な水産・海洋教育の充実

家庭 1 多様化する生活関連産業と社会のニーズに対応した家庭科教育の推進

2 地域や産業界との連携・交流を通じた実践的・体験的な専門教育の充実

福祉 1 確かな専門性を備えた人材の育成を目指した福祉教育の推進

2 福祉関連施設との連携による実践的な福祉教育の充実

情報 1 地域や産業界と連携・交流を通じた実践的・体験的な学習活動や就業体験の推進

2 情報活用能力の育成及び情報モラル・セキュリティ指導の充実

特別支援教育 ～特別支援教育の授業づくり～

個別の教育支援計画作成 ※合理的配慮
(障害理解・本人・保護者の願い・教育ニーズ等を踏まえ校内支援委員会で確認)

個別の指導計画 P・A
(障害の状態等に応じた教育課題のもと担任が作成)

授業づくり D
(障害等の実態把握・支援機器の活用等)

授業の実施 D
(支持的環境作り・自己肯定感や達成感を育む教育等)

授業の評価 C
個々の学習評価 (よい子のあゆみ等で本人と保護者と確認、指導要録の記載、学年引き継ぐ)

※合理的配慮…実態や本人の希望をもとに、学習環境・人的・物的等への配慮

I 幼稚園における指導の努力事項

1 教育課程の効果的な推進

- － 生きる力の基礎を育むことを目指し、創意ある教育課程の編成及び実施 ー
幼稚園教育の目標に含まれる意図を十分に理解し、幼児期にふさわしい環境の下で、幼児が様々な体験を通して生きる力の基礎を育むことができるように、教育課程を編成する。

2 環境を通して行う教育の充実

- － 心情、意欲、態度を育む人的・物的・空間的環境構成の充実 ー
幼児が主体的に環境とかかわって十分に活動し、充実感や満足感を味わえるような人的・物的・空間的環境構成の充実を図る。

3 遊びを通じた総合的な指導の充実

- － 幼児期の発達の特性を踏まえた指導の充実 ー
幼児一人一人の実態を把握し、発達に必要な経験が得られる指導計画を作成し、遊びを通しての総合的な指導の充実を図る。

4 基本的な生活習慣の形成

- － 健康で安全な生活習慣を身に付け、自立心や道徳性の芽生えを培う指導の充実 ー
個々の幼児の発達に応じた適切な援助を行い、家庭と連携して基本的な生活習慣や態度を身に付けさせるとともに、自立心や自尊心を育み、幼児期からの道徳性の芽生えを培う。

5 園内研修の充実

- － 実践的指導力の向上と信頼される幼稚園づくりの推進 ー
研修体制を確立するとともに、教師の実践的指導力などの専門性を高め、保護者や地域社会に信頼される幼稚園づくりの推進を図る。

II 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における指導の努力事項

※本項目は、小・中・高・特支に共通する項目を中心に掲載しています。

1 教育課程の効果的な推進

- － 生きる力を育み、創意工夫を生かした教育課程の編成・実施 ー
学校教育は公の性質を有する（教育基本法第6条第1項）ため、全国どこにおいても同水準の教育を確保することが求められる。そのため、学校において編成、実施される教育課程は、教育課程に関する法令に従いながら、学校教育の目的や目標を達成するため、創意工夫を加えて、地域や学校及び児童生徒の実態に即した教育課程を責任をもって効果的に推進する必要がある。

2 学習指導の工夫・改善・充実

- － 「わかる授業」の構築における指導体制や指導方法の確立 ー
児童生徒一人一人の実態等を十分把握し、個に応じた指導体制や指導方法、評価方法の工夫・改善を図るなど、「わかる授業 Support Guide」を活用して全校体制による「わかる授業」の構築に努める。

3 道徳教育の充実

- － 自他の生命を尊重する心を基盤に「豊かな心」を育む ー
児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自らの人生をよりよく生きていけるようにするためには、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなどの豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を培うことが重要である。

4 健やかな心と体を育む教育の推進

- － 心と体を一体として捉えた、健康の保持増進と体力の向上 ー
体育・スポーツ活動に関する指導については、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、豊かなスポーツライフの基礎を培う観点に立ち、学習指導の工夫・改善を図る。併せて、運動部活動の活性化や適正化を促進し、発達の段階に応じた基礎的な体力の向上に努める。

5 生徒指導の充実

－ 信頼関係を基盤とした生徒指導の充実 －

日頃から学級経営の充実を図り、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒理解を深め、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるよう生徒指導の充実を図る。

6 キャリア教育の充実

－ 望ましい勤労観・職業観を育みキャリア発達を促す取組の推進－

教育課程全体を通じて必要な資質・能力の育成を図り、児童生徒のキャリア発達を促す取組を推進し、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。

9 特別支援教育の充実

－ 個々の教育的ニーズの把握と全校体制による教育的支援 －

障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行う。

13 食育の推進

－ 基本的生活習慣の確立と健全な食生活を実践することのできる能力の育成 －

学校教育活動全体を通じた食育の推進に努め、家庭や地域関係機関と連携し、児童生徒に様々な経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得させ、健全な食生活を実践することができる能力を育成する。

14 学校安全・防災教育の推進

－ 幼児児童生徒の危険回避能力の育成 －

幼児児童生徒が、自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成するとともに、幼児児童生徒の安全を整える。

15 平和教育の充実

－ 生命の尊重を基盤に、世界の平和を希求する心を育む －

平和教育は、生命の尊重と個人の尊厳を基本に、思いやりの心や寛容の心を育むとともに、我が国が郷土を愛し、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度の育成を目指して行うことが重要である。

16 国際理解教育・外国語教育の推進

－ 国際社会に対応できるコミュニケーションを図る資質・能力の育成 －

小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、コミュニケーションの手段としての外国語（英語）に慣れ親しませ、外国語（英語）を用いて、コミュニケーションを図る楽しさを体験させるなど、中学校・高等学校外国語（英語）教育との円滑な接続と学びの連続性を踏まえたコミュニケーションを図る資質・能力を育成していく。

17 情報教育の充実

－ 情報活用能力の育成と情報モラル指導の充実 －

校務の情報化を積極的に推進するとともに、ICTの活用や情報モラル指導のための校内研修を充実し、児童生徒に情報を適切に活用する基礎的な能力等を系統的に育成する。

18 環境教育の充実

－ 地球環境の保全やよりよい環境の創造のために、主体的に行動する資質、能力の育成 －

「持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成」を踏まえ、地球的視野で環境を大切にし、地球環境の保全やよりよい環境の創造のために、「自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、行動し、問題を解決する資質や能力」を向上させ生きる力の育成に結びつける。

19 へき地教育の充実

－ 少人数の特性を生かした、合同・集合・交流学习の推進 －

へき地の特性である「へき地性」「小規模性」「複式形態」を生かし、地域に根ざした創意ある教育課程を編成・実施し、主体的で創造性豊かな児童生徒の育成を目指す。また、へき地の学校においては、少人数・複式学級における学習指導の深化・充実を図るとともに、合同学習、集合学習、交流学习を積極的に推進し、児童生徒の自主性・社会性を育む。

自ら学ぶ意欲を育て、学力向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ幼児児童生徒を育成する。
(県教育目標より)

徹底事項

- 1 単元に入る前に、児童生徒の実態を踏まえ、教材と向き合い、評価規準を設定し、学習内容を焦点化する。(説明責任)
- 2 単元に入る前に、診断的評価(レベレス等)を実施し、児童生徒一人一人の学習の定着状況を的確に把握し支援する。(支援の徹底)
- 3 形成的評価、総括的評価から、学習の定着度を把握し、身に付いていない内容があれば、フィードバックする。(結果責任)
- 4 前時の授業に、プラス1のスパイスを加える。(学習意欲の向上)

〈授業は生きているから、面白く、やりがいがある〉

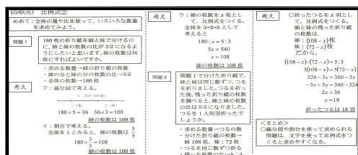


授業は生きているから、ある程度決まった進め方はあるが、絶対的な進め方は存在しない。どのように発問し、何を考えさせ、発表させるか、どのような学び合いを取り入れるか、いつ机間指導(助言・支援)を行い、どのように説明し、何を板書するか、また、考えさせる時間やノートまとめの時間をどのくらい確保するか、などの内容や順序は、児童生徒の思考過程やその充実度等によって多様な方法がある。

教師は、常に、児童生徒一人一人の思考・心理状態を見取り・見極めながら、児童生徒の気持ちを高め、本時の目標(めあて、ねらい)を達成しつつ、B評価(規準)に全ての児童生徒を到達させるために最善を尽くすことが必要なのである。(「わかる授業 Support Guide」より)

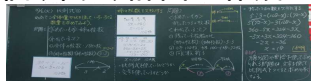
P 評価とねらいが連動した授業設計による毎時間の板書計画(授業ノート)の作成

D 45分・50分完結の授業実践
※導入・展開・まとめ・振り返り
ラスト10分の充実(振り返り・評価)



A 板書計画、板書写真、生徒ノート写真を用いた授業の振り返りによる日常的な授業改善(教科会の充実)
※授業アイデア例を活用した授業を実践する
評価(単元)計画の作成

C 毎時間、評価(単元)計画に基づいた形成的評価の実施
※授業後の生徒へのフィードバック
授業と連動した宿題、補習等



ねらい	具体的事象の中の数量の関係を、比形式の性質を用いて考えることができる。
評価規準	180枚の折り紙を姉と分けると、姉と妹の枚数の比が3:2になるかという問いに答えます。姉の枚数を何枚にすればよいですか。
評価基準	分けた折り紙で、姉と妹は同じ数ずつるを折りました。つるを折った後、残りの折り紙の枚数を調べると、姉と妹の残った枚数の比は3:2になりました。つるを何人何枚折ったでしょうか。
評価基準	具体的な事象の中の数量の関係を、比形式の性質を用いて考えることができる。
評価基準	具体的な事象の中の数量の関係を、比形式の性質を用いて考えることができる。

特別支援における合理的配慮の観点

◎障害の状態等に応じた情報提供やコミュニケーション等を図るために、ICT教材及び補助用具を活用する。

知的障害	視覚的教材、学習環境の構造化、学習する内容や目標、進捗を実態に応じて柔軟に対応。わかりやすい言葉での説明、生活に結びついた体験的学習内容の工夫、情報機器の活用、交流及び共同学習。
病弱・虚弱	進捗を実態に応じて柔軟に対応する。ICT機器の活用(友達とのメールや手紙の交換、テレビ会議システム等の活用、インターネットを活用した類似体験)。
言語障害	聞こえる座席配置、個別の学習、居心地のよい支持的学級づくり、交流及び共同学習。
自閉症・情緒障害	視覚を活用した情報(写真や図面、模型、実物等の活用)、ソーシャルスキルトレーニング、個々の状態に応じた柔軟な計画、集団の工夫、情報機器の活用、交流及び共同学習。
学習障害	読み書きに時間がかかる場合、本人の能力に応じた情報提供(文章を読みやすくする、拡大文字を使った資料、振仮名をつける、音声やコンピュータの読み上げ)。情報機器の活用。
注意欠陥多動性障害	聞き逃しや見逃し、書類の紛失等が多い場合、伝達方法を整理して提供(掲示物の整理整頓・精選、目を合わせての指示、メモ等の視覚情報の活用、静かで集中できる環境等)。